

ドイツ系アメリカ人による社会主義労働運動

長友雅美

0. はじめに

アメリカにおける社会主義思想の発展と労働運動の淵源は、自由・平等・博愛主義に基づく労働と富の分配という点で、アメリカ国内各地に興った様々な「ユートピア共同体」と共通性がある。また19世紀前半頃から、アメリカ国内でも労働者のために雇用条件の改善、福利施設条件の整備、さらに生活水準の向上などを唱える声が強くなり、様々な活動に携わったドイツ系アメリカ人たちがいた。「ユートピア共同体」を試みた初期の社会主義運動家たちと異なり、彼らはもっと根源的な労働の自由、労働に対する公平な対価判定、労働条件の改善などを求めた現実的な社会運動を展開していった。以下本稿では、ドイツ系アメリカ人が、アメリカ合衆国における社会主義思想と労働運動の萌芽期からその発展にどのように関わったかを俯瞰しつつ考察することにしたい。

1. ヴィルヘルム・ヴァイトリング【1849 入国、1871 年 1 月 25 日ニューヨークに没す】



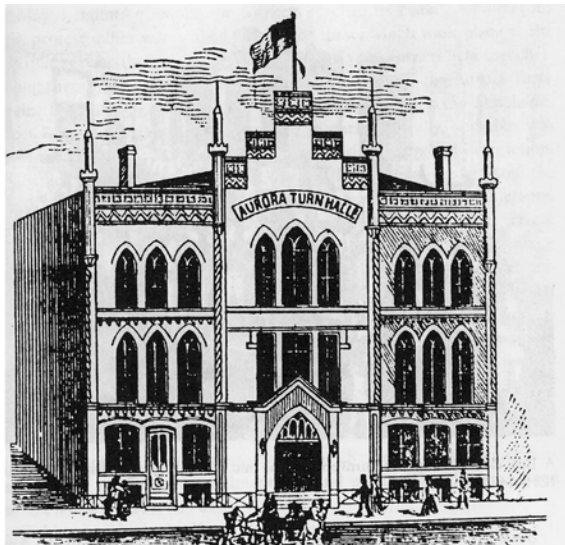
W・ヴァイトリング¹⁾

フランス軍人の私生児としてマグデブルクに生まれたヴィルヘルム・ヴァイトリング (Wilhelm Christian Weitling:1808-1871) は、仕立職人としての遍歴修行をしながら勤勉多読な独学者であった。1835 年頃に、パリで社会主義運動のグループに参加、1846 年にはブリュッセルで、カール・マルクス (Karl Marx:1818-1883) とフリードリヒ・エンゲルス (Friedrich Engels:1820-1895) 主催の「ドイツ労働者協会」に入会した。この年、チューリッヒで『貧しい罪びとの福音』²⁾ と題する論文を著し、原始キリスト教形態の中に、共産主義的な教条と人間が守るべき道徳との共通点があるとする独自の社会主義思想—いわゆる「真性社会主義」を説き始めた。だが同年5月のブリュッセルでの会議で、社会主義運動に関し宗教を一切認めないとするマルクスと意見が対立した。マルクス一派から離脱したヴァイトリングは、独自の社会主義思想を啓蒙する目的で、友人ヘルマン・クリーゲ (Herman Krieg:1820-1850)³⁾ の助言に従い、同年暮れアメリカに入国した。その後2年近く、ニューヨークやフィラデルフィアで社会主義思想の啓蒙活動に専念していたが、祖国ドイツで革命運動が始まったことを知り、1848年4月末に帰国した。だが数ヶ月のうちにこの自由と共和主義を求めた革命運動が弾圧されると、ドイツに見切りを付け、1849年暮れ、新しい形の労働者団体を組織する目的でアメリカへ戻ったのである。再入国したアメリカは、この年カルフォルニアで金が発見され、「ゴールドラッシュ」時代の幕開けを向えていた。⁴⁾

ヴァイトリングが活動を始めた頃、アメリカの大都市にはドイツ系アメリカ人の間でも様々な労働者の団体が存在していたが、これらを統括する組織力はなかった。1850年1月15日、ヴァイトリングは労働組織間の連携を図る布石として、ドイツ語の月刊誌『労働者共和国 Die

『*Republik der Arbeiter*』をニューヨークで発行した。創刊号は950部だったのが、第3号は2000部、同年12月号は4000部と部数を増やし、翌年4月からは週刊誌となり、ニューヨーク以外にもドイツ系移民の多住するボルチモア、フィラデルフィア、シンシナティ、セントルイス、ニューオーリンズ、ピッツバーグ、シカゴなどの都市でも購読者を増やしていった。⁵⁾ さらにヴァイトリングは、1851年10月22日から28日にかけて、ドイツ系アメリカ人職人の全米組織結成を目的に、フィラデルフィアの「ドイツ系アメリカ人労働者協会 *Der Deutsch-Amerikani-sche Arbeiterverein*」の支援を得、国内各地から4,4000人もの労働者を集めた会議を開催した。⁶⁾ この会議では、生産者と消費者を仲介する委員会の設置、労働者が生産した物の対価としてとそれに要した時間に価値を与え、これを一定規則で使用する「労働換金銀行 *Gewerbetauschbank*」⁷⁾、相互保険会社の設立、労働者の教育と啓蒙と福利のための各種クラブの設立などが論議された。

ヴァイトリングは、ニューヨーク市内と隣州ニュージャージー州ホーボーケン市の「体育家協会」所属のドイツ系アメリカ人らの支援を得、「ニューヨーク社会主義体育協会 *Der Sozialistische Turnverein New York*」発行のドイツ語版『ニューヨーク体育新聞 *The New York Turn-Zeitung*』に幾度も自説を投稿していった⁸⁾。すでに1849年11月には、フィラデルフィアで活動する体育家協会会員の一部が「社会主義体育家協会 *The Sozialistischer Turnverein*」を組織しており、ニューヨークやボルチモアなどでも、社会・共産主義という当時最先端の思想に共鳴する会員たちが、労働者の地位と労働条件の向上を訴えながら社会活動を行っていた。1850年初春、賃金アップを求めたドイツ系アメリカ人指物大工たちが、20あまりの異業種の人々と同調し、大規模な職場放棄をニューヨークで決行した。⁹⁾ ヴァイトリングはニューアーク、ニューオーリンズ、フィラデルフィアでも労働組織の結成を呼びかけ、1852年5月1日、新たに「労働者同盟 *Arbeiterbund*」を組織した。¹⁰⁾ フィラデルフィアに結成された労働組合では、完全雇用の促進、農地改革、奴隷制度についても討議を重ね、さらに災害疾病・死亡保険金制度の構築、福利厚生のための集会所建設等も検討されていった。5年後の1857年、ヴァイトリングの活動に触発され「シカゴ労働者協会 *The Chicago Arbeiter-Verein*」が誕生した。

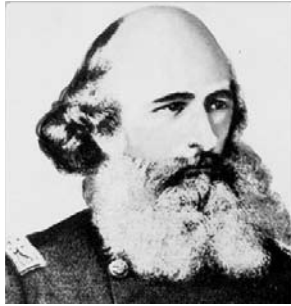


1868年6月1日に「ミルウォーキー通り *Milwaukee Avenue*」に開所した新しい「オーロラ体育協会」の建物。1890年代までシカゴの北西地区 *Northwest Side* の労働者たちが集う場所であった。¹¹⁾

この組織は、音楽会、舞踏会、講演会、討論会、さらには英語の補習授業開設など、様々な事業を行う総合文化施設団体としても機能した。ビールを飲むサロン、図書室、音楽室などが労働者協会の会館内に敷設されただけでなく、当時ドイツ系アメリカ人が多く住む都市と同様、市内で活躍する「合唱協会」や「体育家協会」関係者やその家族・縁者等をも惹きつける福利厚生施設として、その機能を十分に発揮していった。なかでも『シカゴ労働者新聞 *Chicago Arbeiter Zeitung*』の編集主幹で、後述の「ハイマーケット事件」首謀者として処刑されたオグスト・スパイスが所属していたのが、シカゴ市民にもよく知られていた「オーロラ体育家

協会 *The Aurora Turner Verein*」であった。

2. ヨゼフ・ヴァイデマイヤー【1851年11月7日ニューヨー港着】を取り巻く人々



J・ヴァイデマイヤー¹²⁾

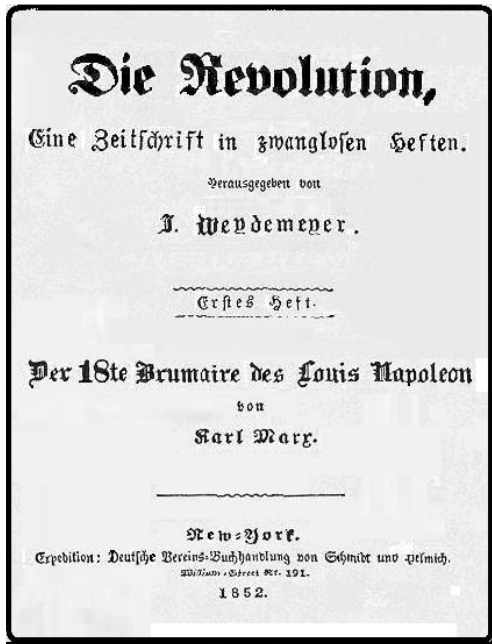
5人兄弟の長男として北独ミュンスターに生まれたヨゼフ・ヴァイデマイヤー (Joseph Arnold Wilhelm Weydemeyer: 1818 - 1866) は、プロイセン公国官吏の父の期待に沿うべくベルリンの砲兵学校に学んだ後、実務訓練を経て1844年、ケルン地区配備のプロイセン陸軍「第7砲兵隊」少尉として軍務に就いた。¹³⁾ シュレジア地区 (現在ポーランド領) の職工たちが、労働条件改善を求め一斉に職場放棄を起こしたのはこの年の6月頃であった。これは労働者たちが、工場主、すなわち経営者側に、職場放棄という手段で自らの意思を示した新しい社会の動きであった。

ヴァイデマイヤーは、当時しだいに普及しつつあった社会主義思想に関心を抱き、退役願いを申請、その後しばらく、労働者の悲惨な状況を暴露し社会正義と平等の啓蒙に力を注いでいた『トリア新聞 *Trierische Zeitung*』のケルン支局通信員を勤め、さらに義父オットー・リューニング¹⁴⁾ 発行の『ヴェストフェーリシェ・ダンプフボート *Das Westphälische Dampfboot*』紙や、モーゼス・ヘス (Moses Heß: 1812 - 1875)¹⁵⁾ とフリードリヒ・エンゲルス創刊の『社会年鑑 *Gesellschaftsspiegel*』などに社会批評や論文を投稿していた。¹⁶⁾ 1848年7月1日からはリューニングを助け『新ドイツ新聞 *Neue Deutsche Zeitung*』の編集発行に従事、¹⁷⁾ さらに「三月革命」期頃からは、労働者組織の活動家としてもケルン市を中心に多忙な日々を続けていた。だがこうしたヴァイデマイヤーの活動は官憲を刺激、危険人物と見なされ、1850年秋頃から密偵に狙われ、スイスを経て家族とともに翌1851年11月7日ニューヨークに亡命したのである。¹⁸⁾

1850年に発行された上述の『ニューヨーク体育家新聞』¹⁹⁾ は、ヴァイデマイヤーのアメリカでの活動にも深く関与していくことになる。この新聞は1851年11月15日付の記事に、新聞発行の目的が「体育協会の会員に対し、社会主義・民主主義の諸原理に関わる誤解の払拭だけでなく、会員と活動に賛同する友人たちのなかから、将来社会のためにあらゆる分野で様々な改革に取り組む信念を持った闘士を育成することに努力する必要がある」といった内容²⁰⁾ を掲載したのである。

マルクス主義思想の啓蒙運動を本義とするヴァイデマイヤーは、1852年5月には『ディ・レボルツィオン *Die Revolution*』誌を創刊、²¹⁾ その第一号に、マルクスの労作『(ルイ・ボナパルト) ナポレオンのブリュメール18日 *Der 18te Brumaire des Louis Napoleon*』をヨーロッパに先んじて掲載したのであった。ニューヨークで印刷されたこの出版物は、発行部数が多いはなかったものの、当時のドイツ系アメリカ人のさまざまな協会や組織の要人たちの目にとまったようである。²²⁾

1853年3月21日、ニューヨークにおいて、800名ほどのドイツ系アメリカ人労働者による初の共産主義を標榜する大規模な組織「アメリカ労働者同盟 *Amerikanisches Arbeiterbund*」²³⁾ が、ドイツから亡命してきた数十名の社会主義者たちも参加し誕生した。組織結成の発起人はヴァイデマイヤーと友人のフリードリヒ・ゾルゲ (Friedrich Adolph Sorge: 1828 - 1906)²⁴⁾ であった。これは明確に「共産主義」を打ち出したアメリカで最初の団体で、その理論的根拠となったのは



1852年、ヴァイデマイヤーの編集によって、アメリカのニューヨーク市で出版され最初のマルクス主義の新聞『レヴォルツィオン』の創刊号に掲載された、カール・マルクスの『ルイ・ナポレオンのブリュメール18日』²⁵⁾の表紙

に、どん底の生活を余儀なくされる者が続出し、ニューヨーク、フィラデルフィア、シカゴなどで失業者のデモ行進が多発していった。この時流を好機と捕らえ、1857年10月25日、ニューヨーク市に新たに「ニューヨーク共産主義クラブ *Der New-York Communist Club*」が結成された²⁷⁾。この団体結成に尽力したのが、上述のフリードリヒ・ゾルゲであった。彼は、カール・A・ドゥエー²⁸⁾の友人で、共産主義（もしくは社会主義）に関心を抱く人々に、ヨーロッパ各地での最新の大衆運動とその思想内容を啓蒙しようとしていた。この団体は、結成されてしばらくの間、労働者の地位改善より、奴隷制度の全廃を社会にアピールすることに力点をおいて活動していたようである。これは南北戦争直前頃のアメリカの世相としては当然であったのかも知れない。

翌1858年に結成されたニューヨークの「共産主義者クラブ」は、全米的な規模の指導を行いながら、シカゴ、ミルウォーキー、シンシナティなどで結成されつつあった類似組織と、連携体制の強化を模索し始めていた。すでにシカゴでは1857年に「シカゴ労働者協会 *The Chicago Arbeiter Verein*」が活動を始めていたが、ヴァイデマイヤーを含む指導的なマルクス主義者たちの多くが中西部諸州へ移り住んできたこともあり、労働者の地位向上と社会体制の差別是正などを掲げた社会主義的な啓蒙運動は、シカゴへとしだいに中心を移していった。

話をヴァイデマイヤーに戻そう。彼は1856年初めにニューヨークを去り、ミルウォーキーを経てセントルイスへ転居、南北戦争が始まると「第2ミズーリ砲兵連隊」の大尉となり、中佐に昇進、その後一旦予備役となるが、1864年8月に「第41ミズーリ歩兵連隊」への志願兵募集が

出版されたばかりの『共産党宣言』であった。にもかかわらず、この団体は、当時大きな社会問題となっていた奴隷制度に関し、何ら積極的な意見開陳も提言もすることなく、しだいに労働者の関心を失い消滅してしまった。

だがこの組織は他の都市の労働運動家たちに影響を与え、わけてもワシントンDCでは、アドルフ・クラス (Adolf Cluss: 1825–1905) 【現在ではむしろワシントンDCの「スミソニアン博物館」群の建築設計家として知られている】を中心に、1853年4月に「労働者全国協会 *Workingmen's National-association*」が結成された。この組織は1857年、「労働者総同盟」として再出発したが、組織力の低下を招き消え去ってしまった。それから数年を経て、アメリカ国中が経済恐慌に見舞われ出した。何も知らずに自由を夢見てやって来た多くの移民たちはこの煽りを食ったのである。

失業者が増加するなか、言葉も習慣も異なる多くの移民たち



F・A・ゾルゲ²⁶⁾

始まると直ちにこれに応募し入隊、同連隊指揮官（大佐）としてセントルイス守備の任に就いた。²⁹⁾ ヴァイデマイヤーは南北戦争終結年の7月11日に除隊、秋にはセントルイス市の経済企画担当最高責任者に抜擢された。この仕事の主な内容は南北戦争で秘かに暴利を得ていた商人の脱税の摘発にあったようである。³⁰⁾

南北戦争の終結も奴隷解放令も、南部諸州の黒人にとっては真の意味で奴隷身分の開放を意味してはなかった。法的には奴隷制度から解放されたものの、自活のために農耕地が付与されたわけでもなく、生計維持のため、日雇い農夫として元の主人である白人の大農場経営者に雇われるか、または小作農として働かざるを得なかった。しかし南北戦争が連邦軍の勝利で終結したことは、アメリカの労働運動にとって重要な意味を有していた。この戦争中、労働者の権利を守り労働条件改善を目指す多くの組織が結成されていったからである。

1866年8月20日、セントルイス市内に蔓延していたコレラ菌に襲われたヴァイデマイヤーは、この世を去った。この日はボルチモアで、友人シルヴィス（William H. Sylvis: 1829-1869）によって「全国労働同盟 *National Labor Union*=*NLU*」³¹⁾ が組織され、「1日8時間労働実現の要求」を活動方針に決定した日でもあった。³²⁾ 15年近くもアメリカで労働社会運動に携わったヴァイデマイヤーの姿をこの会議場に見ることはなかったのである。

3. 社会主義を標榜する労働者党の発足

マルクス主義に心服し、労働条件改善と労働者の地位向上を望む人々は、1867年頃からアメリカ国内にも「万国の労働者、団結せよ *Proletarier aller Länder, vereinigt euch!*」³³⁾ を合言葉とする「国際労働者協会」³⁴⁾ 支部の創設に力を注いだ。最初の支部は、「ドイツ一般労働者連合 *German General Worker Union*」と「ニューヨーク共産主義クラブ」との合体による「ニューヨーク社会党 *Social Party of New York*」であった。³⁵⁾ この合言葉が書き込まれた赤旗が二万人もの労働者とともにニューヨーク市街を行進したのは、1871年のことであった。

1876年7月19日から22日にかけて、フィラデルフィアで開かれた「合衆国労働者党」大会は、ドイツ系アメリカ人労働者にとっても、またアメリカの政治史上でも、「社会主義」を標榜する労働政治団体が誕生したという意味で重要である。³⁶⁾ この組織は翌年12月の大会で「北米社会労働党 *Sozialistische Arbeiterpartei von Nordamerika*」と党名を変更、1879年には、25の州で党員1万人を抱える大組織となっていた。

シカゴで最初にドイツ系アメリカ人がまとまって住み着いたのは、市内中心を流れるシカゴ川周辺で、やがて1860年代に入ると、北西側にも居住し始めた。ただし熟練工の多く住む北部と異なり、この北西側には非熟練労働者が多く、彼らはドイツ語学校、教会、集会所、仕事を一体とした一大生活共同体を形成していた。このいわば「ドイツ民族の飛び地」で、懸命に、自分たちの「民族的アイデンティティー」の育成保護に努めていたのである。その力は、アングロアメリカ文化という移民受け入れ国アメリカの中での「同化」よりももっと強いものであったことが推察される。したがって、ニューヨーク、シンシナティ、セントルイス、ミルウォーキーなどと同様、シカゴでもドイツ系アメリカ人コミュニティは急成長し、ドイツ系の様々な文化的組織や支援団体が結成されていったのである。

1847年にはすでに慈善協会が結成されていたが、ドイツ系移民が本格的にシカゴ市内にも集中し始めた1850年代に入ると、「ドイツ人支援協会 *The German Aid Society of Chicago*」が1853年に結成され、新しくやって来るドイツ系移民の職探しや語学研修、病人介護などを目的とした活

動を開始した。³⁷⁾その後、「仕立屋クラブ」、「家具職人クラブ」、「車輪修理クラブ」といった職域別団体、また「体育家協会」、「合唱協会」、「友愛協会」などの団体がこのミシガン湖畔の町に次々と誕生していった。³⁸⁾

このような団体のなかでも、突出していたのは「体育家協会」である。同協会はシカゴでも、ニューヨークやフィラデルフィアと同様に、労働者階級の社会変革運動と社会主義思想の啓蒙促進のため「自由思想協会」や「反禁酒法団体」とともに活動を展開していった。これらの団体での「公用語」はほとんどがドイツ語で、大多数のドイツ系アメリカ人の両親は、祖国から持ち込んだドイツ文化の保護育成を目的として、その子弟をドイツ系の教区学校（教会附属学校）に通わせたのであった。これはシカゴに限った話ではなく、1850年代から第一世界大戦が始まるまでの70年ほどの間、ドイツ系アメリカ人が多く住む地域の特徴でもあった。

1870年頃、シカゴには59,299人のドイツ生まれの人が住み、シカゴ市の全人口に占めるその割合は19.83%であったといわれている。1880年には76,661人が移住、1890年には16,082人、1910年には、統計を取り始めて最大の314,064人にも達し、全米でもドイツ系移民が居住地として選んだ代表的な都市として知られていったのである。³⁹⁾さらに、1890年代初頭には32万人以上の第一世代のドイツ人が居住し、シカゴ全人口の3分の1にも達していた。しかもその74%が、当時最も工業化の進んでいたドイツのプロイセン公国出身の熟練職人であった。

4. 社会主義運動を促進した新聞

1876年頃から、数多くの新聞が新たに創刊された。その多くが社会問題、労働者の問題を取り上げ、この時代の新しい物の見方、すなわち社会主義的な世界観の啓蒙を主務とするものであった。その主な新聞は、セントルイスの『スター紙 *The Star*』、ニューヨークの『レイバー・スタンダード紙 *The Labour Standard*』などを含む英語版8紙、ドイツ語版の『シカゴ社会主義者 *Der Chicagoer Sozialist*』、『シカゴ労働者新聞 *Die Chicagoer Arbeiterzeitung*』、セントルイスの『西部の民声 *Die Volksstimme des Westens*』、ケンタッキー州ルイビルの『新時代 *Die Neue Zeit*』、オハイオ州シンシナティの『オハイオ国民新聞 *Die Ohio Volkszeitung*』、ニュージャージー州ニューアーク市の『前進 *Vorwärts*』、ニューヨークの『労働者の声 *Die Arbeiterstimme*』、『ニューヨーク国民新聞 *Die New Yorker Volkszeitung*』などであった。⁴⁰⁾このなかでも、アドルフ・ドゥエが1878年1月末に亡くなるまで身を挺し、ドイツ系アメリカ人の社会労働運動を啓蒙支援する目的で編集に従事した『ニューヨーク国民新聞』⁴¹⁾と1872年創刊の『シカゴ労働者新聞』は、アメリカの社会主義労働運動の発展のために様々な社会問題を取り上げ、世論形成の主導的役割を果たしていった。因みにこの新聞の編集に携わっていたひとり⁴²⁾が、後述の「オーロラ体育協会」会員オーグスト・スパイスで、彼が冤罪の犠牲者としてこの世を去った後にその編集作業を継続したのは、カール・マルクスとも親交があったヨーゼフ・ディーツイゲン (Josef Dietzgen:1828-1888)⁴²⁾であった。シカゴ市内の「体育家協会」や他の文化団体が所有する会館では、市内在住のドイツ系アメリカ人労働者のために討論会や講演会が頻繁に開催され、ヴァイデマイヤーの他、医者のアーネスト・シュミット (Ernest Schmidt:1830-1900) などが、これらの団体で講演会を開いていたようである。

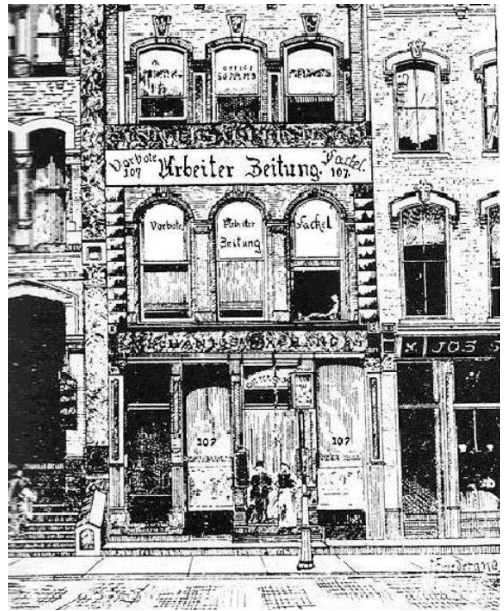


左上：J・ディーツィゲン
1869年以來はカール・マルクスと親交を深め、また当時活躍中の哲学者ルードヴィヒ・フォイエルとも親交があった。



左下：E・シュミット
22歳で医者資格を取得、後ヴェルツブルク大学の私講師を経て、1857年6月アメリカに移住。南北戦争では軍医として「第3ミズーリ歩兵連隊」に所属。ひげが赤いことで「赤ひげシュミット *Der rote Schmidt*」と愛称された。⁴³⁾ 1879年のシカゴ市長選に出馬するも落選。後年「ヘイマーケット事件」の裁判で被告側の弁護を勤めた。

右：シカゴ市内5番街にあった「シカゴ労働新聞社」【図版出処：Heinrich Nuhn: August Spies. Ein hessischer Sozialrevolutionär in America. Kassel: Jenoiere & Pewaalwe, 1995, S.47】



5. 鉄道ストライキ

南北戦争が終結すると、戦禍で荒廃疲弊した南部諸州の都市復興と共に、鉄道敷設ブームが始まった。時代の要請ならびに景気浮揚策として、鉄道網の整備は民間企業にとってもまた合衆国政府にとっても重要事項としてその実現が急がれていた。1866年から1873年のわずか7年間で35,000マイル(56,000 km)にも及ぶ新しい線路が敷かれ、1877年だけでも総額5億ドルの巨費が投じられ、その後大陸横断鉄道網も次々と完成していった、これによって大富豪となるいわゆる「鉄道王」と呼ばれる人々が現れた。急成長の鉄道事業は大規模な雇用促進をもたらした一方で、雇用者と労働者との間に様々な軋轢をも生み出していった。

1877年7月16日を期して、「ボルチモア・オハイオ鉄道会社 The Baltimore & Ohio Railroad」が一律10%の賃金カットを断行するとの決定を下し、同様の通告を受けていたペンシルベニア鉄道会社の労働者たちの怒りが爆発、同7月14日頃にはウエストバージニア州のマーティンズバーグ Martinsburg で始まっていた賃金カット撤回のための労働闘争が、東部海岸各州からシカゴにいたる各鉄道会社にまで波及していった。⁴⁴⁾ 鉄道労働者のストライキに賛同する他の職種の労働者もマーティンズバーグに押し寄せ、大規模な職場放棄ストに発展、貨物列車の運行は完全にストップしてしまった。同社の従業員は賃金カット撤回を求め列車運行阻止の実力行使を行い、この争議を終結するため、ボルチモアに派遣された「第6メリーランド歩兵連隊」と労働者との間に市街戦が発生、州兵が群衆に発砲し、12人が殺され18人が負傷する惨事となったのである。その後ペンシルベニア州のピッツバーグでは、ストライキに参加した一部暴徒と州兵との衝突により、放火や車両破壊事件が発生、ヘイズ大統領は、ついに連邦正規軍の出動を命じ、暴動鎮圧に乗り出した。7月24日にシカゴに飛び火した暴動は、イリノイ・セントラル鉄道を止め、さらにイリノイ各地の他鉄道との接続点（ブルーミントン Bloomington、オーロラ Aurora、ピオリア Pioria、アーバナ Urbana など）を遮断、さらに同州各地の炭田労働者もこのストライキに同調し、シカゴ市内で大規模なデモが繰り広げられた。7月26日朝には、鉄道ストライキと呼



1877年8月18日付の「ハーバース週報」に印刷されたスケッチ画。⁴⁵⁾

応し、社会主義運動に関心を持つドイツ系アメリカ人の家具職人たちが市内の「前進体育協会 Vorwärts-Turner Halle」(西12番通り、現在のルーズベルト・ロード)で集会を開催中、警察官が突入して大乱闘騒ぎとなってしまったのである。

6. 1886年「5月1日」と「8時間労働要求」と「ヘイマーケット爆弾投下事件」

労働条件改善を要求し、ユニオン・パシフィック鉄道会社の労働者が小規模な抗議行動に出た1844年の夏、この団体の会員はまだ2,000人足らずであったが、翌年には21,000人に膨れ上がっていた。組織本部は「一日8時間労働」⁴⁶⁾を要求し、1886年5月1日に他の会社の労働者とともに大規模なストライキを準備していた。だがこのストライキは会員の支持を得られず、各地での分散的集会にとどまった。それでもシカゴでは、6万人近くの労働者がストライキに突入りかねない状況であった。予測に反し実際には何事も生じなかったが、2日後の5月3日、「8時間労働」の要求とは無関係な集会が、市内の「マコーミック刈取機製造会社」⁴⁷⁾の労働者1,400人によって開かれた。会社側の通報を受け、集会を中止させるために来た警察隊と集会参加者との間でもみ合いとなるなか、警察側が労働者に向けてピストルを発砲、労働者6名が死亡⁴⁸⁾、数人の警察官も負傷してしまった。同夜、社会主義改革派の英語版の機関誌『アラーム(警鐘) *Alarm*』と『シカゴ労働者新聞』は、異例の速さで、「事件の責任は警察当局の暴挙にあり、これを断固糾弾すべく、5月4日、公設市場のあるヘイマーケット広場 *Haymarket Square* にて抗議集会開催」と訴えるビラを配布したのであった。⁴⁹⁾

翌5月4日、3000人を上回る人々がヘイマーケット集会に現れ、『シカゴ労働者新聞』の編集主幹で「オーロラ体育協会」会員オーグスト・スパイス (August Vincent Theodore Spies:1855-†1887)⁵⁰⁾、「アラーム」紙の編集主幹アルバート・パーソンズ (Albert Richard Parsons:1844-†1887)、英国人移民のサムエル・フィールデン (Samuel Fielden:1847-†1887) などの抗議演説が行われた。

午後10時頃、シカゴ警察副所長ボンフィールド警察隊長 (Captain John Bonfield:1836-1898)

Attention Workingmen!

MASS-MEETING

TO-NIGHT, at 7.30 o'clock,

HAYMARKET, Randolph St. Bet. Desplaines and Halsted.

Good Speakers will be present to denounce the latest atrocious act of the police, the shooting of our fellow-workmen yesterday afternoon.

Workingmen Arm Yourselves and Appear in Full Force!

THE EXECUTIVE COMMITTEE.

Achtung, Arbeiter!

Größe

Massen-Versammlung

Heute Abend, 7 1/2 Uhr, auf dem

Heumarkt, Randolph-Strasse, zwischen

Desplaines, u. Halsted-Str.

Es sind Redner werden den neuesten Schurkenstück der Polizei, indem sie gestern Nachmittag unsere Brüder erschoss, geißeln.

Arbeiter, bewaffnet Euch und erseheint massenhaft!

Das Exekutiv-Comite.

「労働者に喚起する！大規模集会在今夜7時30分よりヘイマーケットで開催される」同一の内容が英語とドイツ語で印刷されている。⁵¹⁾



図版出処：Heinrich Nuhn: August Spies. Ein hessischer Sozialrevolutionär in Amerika. Kassel: Jenior & Pressler 2.verb.Auf.1995.S.11.

の率いる 200 名ほどの警察官が現場に現れた。1855 年の「シカゴ・ビール騒動」で腕を失い、ドイツ系移民に対して恨みを持つ警察隊長ボンフィールドは、警官隊の力で参集した労働者を解散させようとした。この時突然、何者かによって群集の中に投げ込まれた爆弾が炸裂、警官 1 人が即死、その後警官 7 名労働者 4 名が死亡の他、警官隊と群集合わせて 110 名もの負傷者が出た。⁵²⁾これが事件の経過である。だがヘイマーケット事件はこれで終わった訳ではない。問題は、誰が爆弾を群集の中に投げ込んだかが不明のまま、「アナキスト（無政府主義者）」のレッテルを貼られた逮捕者をめぐる裁判の成り行きと、この裁判の裏に潜んだドイツ系アメリカ人に対する憎悪の念、屈折した「反ドイツ人感情」にあった。

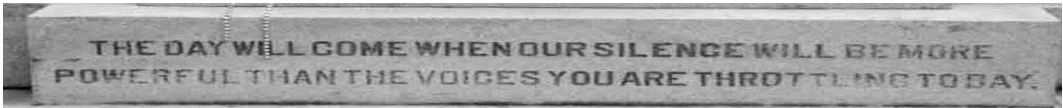
5月17日、大陪審裁判所は、オーグスト・スパイス、ミヒャエル・シュバップ (Michael Schwab:1853-†1887)、サミュエル・フィールデン、アルバート・パーソンズ、アドルフ・フィッシャー (Adolf Fischer:1858-†1887)、ジョージ・エンゲル (Georg Engel:1836-†1887)、ルイス・リング (Louis Lingg:1864-†1887)、オスカー・ネーベ (Oscar W.Neebe: 1850 - 1916)、ルドルフ・シュナウベルト (Rudolf Schnaubelt:1863 - 1901)、ウィリアム・ゼーリガー (Wiliam Seliger: 生没年不詳))らに対し、殺人罪で逮捕状を出した。このうちゼーリガーは当局との司法取引で無罪、シュナウベルトは逃亡、他の 8 名が逮捕され、裁判が開始された。

彼らを有罪とする十分な証拠は無かったものの、州検察官ジュリアス・グリネル⁵³⁾の労働運動家に対する個人的怨念が強く働いたことで、陪審団は十分な審議を尽くすことなく、ジョセフ E・ゲアリー判事に有罪判決を通告したのである。スパイス、パーソンズ、フィッシャー、エンゲル、リングの 5 名に死刑、残り 3 名、シュバップ、フィールデンには終身刑、ネーベには 15 年の懲役刑の判決が言い渡された。1887 年 11 月 10 日、リングはダイナマイトを口に咥えて自殺、スパイス、パーソンズ、フィッシャー、エンゲルの 4 名は翌日絞首刑に処せられた。これは「アメリカ裁判史上の最もおぞましい裁判茶番劇」⁵⁴⁾であり、1921 年の「サッコ・ヴァンゼッティ事件」⁵⁵⁾とともに、自由を求めた移民の国で起きた不幸な出来事であった。



ウォルトハイム墓地の「ヘイマーケット事件殉教者の碑」

アメリカの裁判史上の汚点であるこの不正な裁判と刑の執行に対し、シカゴ市内で様々な集会、新聞を通しての意見開陳があったのは事実である。刑の執行を受けた4人と自殺した一人は「殉教者」扱いとなり、市当局が懸念するほどの大規模な葬儀—その数2万人あるいは5万人もの市民—となり、彼らの遺骸は5台の霊柩馬車に乗せられ、シカゴ市郊外のウォルトハイム *Waldheim* のドイツ人墓地に向かった。後の1893年、この「ヘイマーケット事件」で刑を受けた遺族の支援団体により、「殉教者」の一人オーグスト・スパイスの最後の言葉『我々の沈黙が、今ここで圧殺された声よりも、もっと力を持つ時代がくる *The Day will come when our silence will be more powerful than the voices you are throttling today.*』【下写真慰霊碑の文句参照】⁵⁶⁾が刻み込まれた慰霊碑が建立された。



1889年、パリで開催の国際社会主義者会議に出席したアメリカの代表団は、このシカゴの「殉教者」を記念し労働者の闘争を祝す日として「5月1日」を制定することを提案、こうして「ヘイマーケット事件」と、今日全世界で毎年5月1日に祝される「勤労者の日・メイデー *Arbeitertag, May Day*」は密接に関わるようになったのである。1893年6月26日に、この事件の裁判は公平さを欠き偏見に満ちていたとし、有罪宣告を受け服役中のシュバープ、フィールデン、ネーベら3名の赦免措置をとったのは、ドイツ生まれで、南北戦争中は連邦軍兵士として従軍経験を持つイリノイ州知事ジョン・オルトゲルト (*John Peter Altgeld: 1847-1902*) であった。⁵⁷⁾

「ヘイマーケット事件」から11年後の1894年春【5月11日から】、激しい労働争議が、シカゴ郊外のジョージ・プルマン (*George Mortimer Pullman: 1831-1897*) が経営する「プルマン車輛製造会社」⁵⁸⁾ で始まった。この会社は、工場設備周辺に社宅、学校、工場従業員専用の物品供給販売店や共同図書館、さらには教会まで備え、鉄道寝台車両製造に従事する6,000人ほどの労働者とその家族が暮らす一見理想的な企業団地であった。だが、工場労働者の徹底管理と給料からの社宅諸経費の法外な天引きをするというのがその実態であった。前年頃から始まった金融恐慌にともなう物価高騰が続く中、プルマン社は賃金カットの他、社宅家賃の改定と称して実質上の値上げを断行した。生活苦に陥った同社労働者は5月9日、賃金カットの撤回、社宅家賃や労働条件の改善を目的に会社側との交渉を要求した。だが会社側は、本社事務所に副社長を訪れた労働者側の代表を力づくで排除し、交渉の席を設けることを拒否した。これに対し、ユージン・デブス (*Eugene Victor Debs: 1855-1926*)⁵⁹⁾ が率いる「アメリカ鉄道労働組合 *American Railway Union = AFL*」【1894年には組合員数15万人にも達した】が協調、職場放棄闘争に撃って出たのである。この共同支援闘争により、事態はシカゴ中の鉄道労働関係者を巻き込み、しだいに緊迫したものとなっていった。6月27日には職場放棄が本格化、暴力を用いないことを前提に15もの鉄道会社の従業員が参加し、さらに29日には20の鉄道会社、総数12万人近くがストライキに参加、旅客・貨物ともに一切の鉄道の運行が不能となってしまったのである。

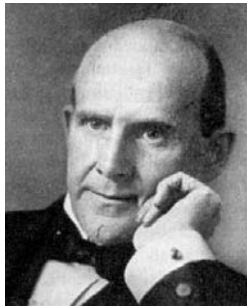
イリノイ州知事オルトゲルトが、実力でストライキを中止させるため州兵を派遣することに

消極的なため、この対応に業を煮やしたクリーブランド（Stephen Grover Cleveland:1837-1908）大統領は、7月4日大統領特権を発動、——この強権発動は合衆国憲法違反であるとのオルトゲルトの抗議声明は無視され——ストライキを執行した労働者鎮圧のため、連邦正規軍約2,000名の武装兵力を派遣する手段に出た。この労働争議の組織委員長デブスと



シカゴ市内 Stockyards でストライキ制圧のためクリーブランド大統領が派遣した連邦正規軍とプルマン会社社員たち⁶⁰⁾

その仲間は告発され、州の裁判所で有罪となる。これを不服として連邦最高裁判所に上告したが棄却。シカゴから約50マイル離れたウッドストック刑務所で6ヶ月ほど刑に服した。一方州知事オルトゲルトは、公的な立場から失脚してしまった。



E・デブス⁶¹⁾

その後デブスは新興の「アメリカ社会党」から大統領候補に指名された。1900年の第29回大統領選挙では共和党のウィリアム・マッキンリー（William McKinley:1843-1901）の再選で敗北、1904年の第30回大統領選でも共和党のセオドア・ルーズベルト（Theodore Roosevelt: 1858-1919）に負け、さらに1908年の第31回大統領選でも共和党のウィリアム・タフト（William Howard Taft: 1857-1930）に負けたもの⁶²⁾、その4年後の1912年の第32回合衆国大統領選挙にも出馬【ウッドロー・ウィルソン（Woodrow Wilson:1856-1924）が大統領となる】し、落選を繰り返しながらも飽くことなく社会主義思想の啓蒙に努めたのであった。

7. 終りにかえて

本稿では、アメリカ合衆国における1840年代後半の萌芽期から、1900年頃までの社会主義労働運動に、いかに多くのドイツ系アメリカ人が関わってきたかに視点を当てて論じてきた。とくに注目すべきは、ドイツ系アメリカ人こそが、これらの運動を始めた点である。残念ながらこの歴史的事実—アメリカの文化ならびに政治に重要な影響を与えた数多くのドイツ系アメリカ人の活動—は、アメリカ本国においても、第一次世界大戦を機に、現在に至るまで、意図的と言えるほど日陰に追いやられているように思われてならない。

●主要参考文献

Blos, Wilhelm:

Die Deutsche Revolution. Geschichte der Deutschen Bewegung von 1848 und 1849. Illustriert von Otto G.Lau. Stuttgart/Berlin: A.W.W.Diek, 1922.

Burrows, Edwin G./Wallace, Mike:

A History of New York City to 1898. N.Y./Oxford: Oxford University Press. 1999.

Foster, William Z:

Geschichte der kommunistischen Partei der Vereinigten Staaten. (übersetzt vom Amerikanischen von Erich Salewski) Berlin: Diez Verlag. 1956.

Harnack, Arvid:

Die vormarxistische Arbeiterbewegung in den Vereinigten Staaten. Eine Darstellung ihrer Geschichte. Jena; Gustav Fischer, 1931.

Hofmeister, Rudolf A.:

The Germans of Chicago. Stipes Publishing Co. 1976.

Keil, Hartmut/Jentz, John B.:

German Workers in Chicago. A Documentary History of Working-Class Culture from 1850 to World War I. University of Illinois, Press. 1988.

Nuhn, Heinrich:

August Spies. Ein hessischer Sozialrevolutionär in America. Kassel: Jenoure & Pawaalwe, 1995.

Obermann, Karl

Joseph Weydemeyer. Ein Lebensbild 1818 – 1866. Berlin: Dietz Verlag, 1968.

Schlüter, Hermann:

Die Anfänge der deutschen Arbeiterbewegung in Amerika. Stuttgart: J.H.W.Dietz Nachfolger, 1907.

Ueberhorst, Horst:

Turner unterm Sternbanner. München: Heinz Moos, 1979.

注釈

- 1 図版出処: Wilhelm Weitling. *Gerechtigkeit*. Nachwort von Ahlrich Meyer. Berlin: Karin Kramer Verlag, 1977.
- 2 Hermann Schlüter: *Die Anfänge der deutschen Arbeiterbewegung in Amerika*. Stuttgart: J.H.W.Dietz Nachfolger, 1907. S.60. 因みにこの論文 *Das Evangerium des armen Sünder* は1967年に旧東ドイツで次の題名で再版された、と記されているが未見。: Wilhelm Weitling: *Das Evangerium des armen Sünder*. Mit einem Nachwort. Hg. v. Waltraud Seidel-Höppner. Leipzig. 1967.
- 3 Edwin G. Burrows/Mike Wallace: *A History of New York City to 1898*. N.Y./Oxford: Oxford University Press. 1999, P.766. : ヘルマン・クリーグは、ヘーゲル哲学信奉者フォイエルバッハ (Ludwig Andreas Feuerbach:1804–1872) の弟子。1845年9月頃にニューヨークに到着、同年同地で「社会変革協会 Sozial Reform Assoziation SRA」を結成、アメリカ初の労働者のためのドイツ語週刊新聞「デア・フォルクストゥリビューン Der Volkstribun」紙を発行した。1848年に祖国ドイツで革命運動が始まると帰国、同年6月には「フランクフルト国民会議」の代議員として参加するが、その後の政治情勢に失望し1849年6月にニューヨークに移住、その後シカゴのドイツ語新聞「イリノイシュターツ・ツァイトゥング Illinois Staats Zeitung」紙の編集者として1年半ほど活躍。1850年4月頃から脳障害に侵され、この年の12月31日に死亡。
- 4 Karl Obermann: *Joseph Weydemeyer. Ein Lebensbild 1818 – 1866*. Berlin: Dietz Verlag, 1968, S.234.
- 5 この週刊誌は1850年1月15日号から、『労働者団結のための情宣中央機関紙 Centralblatt der Propaganda für die Verbrüderung der Arbeiter』という副題を持ち、その後1855年の6月21日まで発行された。Arvid Harnack: *Die vormarxistische Arbeiterbewegung in den Vereinigten Staaten. Eine Darstellung ihrer Geschichte*. Jena: Gustav Fischer, 1931. S.155. Karl Obermann: 上掲書, S.234. Hermann Schlüter: 上掲書, S.119.
- 6 Hermann Schlüter: 上掲書, S.83 ならびに Arvid Harnack: 上掲書, S.158.
- 7 William Z.Foster: *Geschichte der kommunistischen Partei der Vereinigten Staaten*. (übersetzt vom Amerikanischen von Erich Salewski) Berlin: Diez Verlag. 1956, S.20, S.25.
- 8 ヴァイドマイヤーの投稿記事については Karl Obermann: 上掲書の46頁～52頁にかけて説明がある。1851年12月15日の創刊号を皮切りに、翌年の12月頃までほとんど毎回記事を掲載している。
- 9 Karl Obermann: 上掲書, S. 234. William Z.Foster: 上掲書, S.27. ならびに Hermann Schlüter: 上掲書. S.80.
- 10 Arvid Harnack: 上掲書, S.159 ならびに Hermann Schlüter: 上掲書, S.86.
- 11 Hartmut Keil/John B.Jentz: *German Workers in Chicago. A Documentary History of Working-Class Culture from 1850 to World War I*. University of Illinois, Press. 1988., p.160ff.
- 12 図版出処: Karl Obermann: 上掲書〔頁数無明記〕この軍服の写真は1864年8月、ヴァイドマイヤーが「第41 ミズーリ歩兵連隊」に入隊した頃のものと思われる。
- 13 Karl Obermann: 上掲書, S.19.

- 14 Otto Luning (1818-1868) : レーダ *Rheda* 出身の社会主義者で医者。娘のルイーゼがヴァイデマイヤーと結婚したことでヴァイドマイヤーの義父となる。
- 15 モーゼス・ヘスは 1875 年に亡命先のパリで客死、遺体はケルン市内のユダヤ人墓地に埋葬されたが、彼が 50 歳の時に著した『ローマとエルサレム』が 1940 年・50 年代の「シオニズム運動」の原点と賞賛されたため、イスラエル共和国政府は遺骨を掘り起こし、榮譽を祝しエルサレムの「キネレート墓地」に再度埋葬した。
- 16 Karl Obermann: 上掲書, S.34.
- 17 Karl Obermann: 上掲書, S.133. 「民主主義の機関紙 *Organ der Demokratie*」という副題を持つダルムシュタットで発行されたこの *Neue Deutsche Zeitung* 紙は「ドイツ三月革命」の動乱期に創刊された数多くの新聞のなかでも「ノイエ・ライニッシュェ・ツァイトゥング *Neue Rheinische Zeitung*」【1848 年 6 月 1 日にカール・マルクスがケルンで創刊、1850 年 12 月 14 日に廃刊】と並び、共和制体による民主国家としてのドイツ統一を呼びかける新聞であった。
- 18 Karl Obermann: 上掲書, S.232 によると、ヴァイデマイヤーはチューリッヒを經由し、1851 年 9 月末、家族とともにフランスのル・アーブル港を出港、38 日間の航海の末、11 月 7 日にニューヨークに至った、とある。
- 19 Hermann Schlüter: 上掲書, S.201f. 因みにアメリカ最初の「体育協会」の刊行物は、1851 年 1 月、最初シンシナティでヴィルヘルム・ロータッカー (Wilhelm Rothacker:1828-1859) 【南ドイツバーデン公国エンゲン *Engen* (バーデン湖畔の町コンスタンツ *Konstanz* の北西約 52Km に位置する) 生まれ】によって編集発行され、同年 10 月、ニューヨークの「社会主義体育協会」の会長ジギスムント・カウフマン (Sigismund Kaufmann:1825-1889) が編集主幹を務める「体育家新聞 *Turnzeitung*」がニューヨークで発行された。
- 20 Karl Obermann: 上掲書, S.237, ならびに Horst Ueberhorst: *Turner unterm Sternbanner*. München: Heinz Moos, 1979, S.68. これが掲載されたのは *Turn-Zeitung Organ des sozialistischen Turnerbundes*. Hg.vom Vorort (New York), I.Jg., Nr.1 vom 15.Nov.1851. Vorwort.
- 21 この週刊誌は 1852 年 1 月、ニューヨークの「体育家新聞 *Turnzeitung*」にその予告記事を出したが定期購読の申し込みが少なく、資金調達が滞りわずか 2 号【1852 年 1 月 6 日の創刊号と 13 日の第 2 号の】で、廃刊となった。【アメリカでの表記は *Turnzeitung* とする場合と *Turn-Zeitung* とハイフン付きの表記があり一定していない。】
- 22 Karl Obermann: 上掲書, S.267.
- 23 別名「プロレタリアート同盟 *Proletarierbund: Proletarian League*」, Hermann Schlüter: 上掲書, S.132 参照。
- 24 「ドイツ三月革命」の折、バーデン蜂起に参加、一時期スイスに亡命。後にアウグスト・ヴィリッヒ (August Willich:1810-1878) と親交を結び、さらに 1851 年にスイスからベルギーを経て 1852 年ロンドンへ亡命、同地でカール・マルクスの亡命グループに参加、共産主義運動の原理を学び、同年アメリカに移住。音楽教師として暮らしながら共産主義思想の啓蒙運動に従事。友人のマルクスやエンゲルスと長年文通を交わす仲であった。1871 年から 1895 年までに 147 通もの文通が行われ、1966 年から 68 年にかけて出版されたマルクス・エンゲルス全集 33 巻から 39 巻に、大方の書簡が収録されている。因みに彼は、1941 年 10 月に発覚した「ゾルゲ事件」【日本政府の機密をソビエトに通報した事件首謀者のひとり、リヒャルト・ゾルゲ (Richard Sorge:1895-1944)】の大叔父にあたる。
- 25 表題はヴァイデマイヤーによって『*Der 18te Brumaire des Louis Napoleon* ルイ・ナポレオンのブリュメール 18 日』と変更されている。この第二版はマルクス自身により加筆訂正され、1869 年にハンブルクで出版された。この図版の出処は Karl Obermann: 上掲書〔頁数無明記〕より。
- 26 写真出処: www.marxists.org/archive/sorgge/innndex.htm より。
- 27 Herman Schlüter 上掲書, S.161. William Z.Foster: 上掲書, S.30., Karl Obermann: 上掲書, S.345., この組織代表はかつてボンで非合法の「民主クラブ」の重要な会員として活躍したフリードリッヒ・カム (Friedrich Kamm: ?-1867)、副代表はアルベルト・コンプ (Albert Komp: 生没年不詳)、書記局長はフリッツ・ヤコービ (Fritz Jacobi: ?-1862) であった。
- 28 カール・ドゥエー (Carl Adolph Douai: 1819 - 1888) は、テキサス州「サンアントニオ男性合唱協会」の創立会員のひとりで、1853 年にドイツ語新聞「サンアントニオ・ツァイトゥング *San Antonio Zeitung*」紙を創刊。後年、ボストンに居を構え幼児教育運動に従事、さらにハーボーケンを経て 1866 年にニューヨークに居を移し「ニューヨーク・デモクラート *New York Demokrat*」紙の編集者としても活躍。
- 29 Karl Obermann: 上掲書, S.382. Hermann Schlüter: 上掲書, S.159.
- 30 Karl Obermann: 上掲書, S.390.

- 31 この組織は1869年には60万もの会員を持つ団体。マルクス主義の影響を受けてはいたが、マルクス主義者の組織ではなかった。Andrew Jacke Townsend: *The Germans of Chicago*. Ph-Diss. Department of History, The University of Chicago, Chicago Illinois, 1927, p.68.
- 32 因みにこの要求が審議され「8時間労働」に関する法令として実現したのは、1868年6月25日に合衆国連邦議会で審議可決されてからであった。この頃の労働条件について、R.K. リーヴァーマン著、鈴木依子訳：『スタインウェイ物語』・法政大学出版、1998年 Richard (K.Lieberman: Steinway & Sons. New Haven; Yale Univ.Press 1995)【97頁以下（読み易くするために漢数字を算用数字に変えた）】に次のような記述がある。
一日8時間労働は、6年前の1866年にボルティモアで全米労働組合が設立されたときから始まっていたにもかかわらず、ほとんどの店は一日10時間は開いていた。1868年、連邦政府の従業員（ママ）には一日8時間労働が許された。しかし1872年までその動きはほとんど停止していた。1869年12月以来フィラデルフィアでひそかに会合を開いていたナイツ・オブ・レイバー（労働者の騎士団）がその運動を始めた。団長のテレンス・パウダリーを先頭にして、騎士団は一日8時間労働を押し進めた。1872年春、ニューヨーク市の大工たちがストライキを始めた。一週間もしないうちに、ウィリアム・スタインウェイは日誌に、ストライキが成功したと記している。三日後、500人のピアノ労働者たちがパウリーのドイツ・コミュニティー会議所で集会を開き、一日8時間労働に投票することを決議した。これは、同じ収入を得るのに、出来高作業での賃金を20パーセント上げることと等しかった。
- 33 William Z.Foster: 上掲書、S.63. には「赤旗」の中にこの合言葉が書き込まれ（刺繍され?）、ニューヨークの町中に翻ったのは1871年2万人の労働者たちが「8時間労働」を求めた時である、とだけ記されている。
- 34 この「第一次インターナショナル *Die International Arbeiterassoziation*」は1864年9月28日、ロンドンのセント・マーチン会堂で結成された。
- 35 William Z.Foster: 上掲書、S.57.
- 36 Weltgeschichte in Zehn Bänden.Bd.7.Berlin: (Redaktion: A.A.Guber) VEB Deutsche Verlag der Wissenschaften, 1965. S.256. この労働団体はドイツ語名 Arbeiterpartei der Vereinigten Staaten 英語名は Workingmens Party of the U.S.A.
- 37 Rudolf A.Hofmeister: 上掲書、p.15.
- 38 Rudolf A.Hofmeister: 上掲書、p.15.
- 38 Rudolf A.Hofmeister: 上掲書、p.113.
- 39 Andrew Jacke Townsend: 上掲書 p.9., Rudolf A.Hofmeister: 上掲書 .95.
- 40 Morris Hillquit: *Geschichte des Sozialismus in den Vereinigten Staaten* Stuttgart: J.H.Dietz, 1906, S.214f.
- 41 F.A.Sorge: *Die Arbeiterbewegung in den Vereinigten Staaten*. In: *Die Neue Zeit*. Revue des geistigen und öffentlichen Lebens.,6.Jg., 2.Bd. (Glashütten im Taunus: Detlev Auvermann KG. 1972 =Nachdruck der Ausgabe Stuttgart 1892) , S.241.
- 42 図版出処：これは息子のオイゲン・ディーツゲンが編集したドイツ語版全集の第一巻掲載の写真：“Das Wesen der menschlichen Kopfarbeit” Eine abermalige Kritik der reinen und praktischen Vernunft und Kleinere Schriften von Josef Dietzgen. Josef Dietzgens Sämtliche Schriften. (Hg.v.) Eugen Dietzgen. Bd.1. Stuttgart: J.H.W.Dietz Nachf. GmbH. 1920. ディーツゲンは、1828年12月9日、ドイツのケルン近郊の小村ブランケンベルク *Blankenberg* に生まれ、父親が営む製革工場のユッケラート *Uckerath* への移転にともない、同地の教会学校で基礎的な読み書きを習った。1848年のドイツ「3月革命」に関与、アメリカ亡命を決意、翌年6月、21歳の若さでアメリカに向かう。2年間、革職人、塗装工をしながら北のウィスコンシンから南のメキシコ湾岸地区、東はハドソン川から西はミシシッピー川に至るまで、アメリカ各地を放浪し見聞を広め、1851年に帰国。再び父親の皮革工場で働きながら思索と著作活動に務め、1864年から1868年まではロシア帝国政府に雇われ、ザンクト・ペーターズブルクの帝国皮革工場でなめし職工技術の管理を務めながら、今でも読まれることのある『人間の頭脳労働の本質 *Das Wesen der menschlichen Kopfarbeit*』【1869年にハンブルグで出版。わが国では昭和4年（1929年）に、東京の改造社の改造社文庫のひとつとして出版、後に復刻された。ヨゼフ・ディーツゲン著・山川均訳：『弁証法的唯物観』、改造文庫・第一部・第二十篇（改造文庫複製版第一期：『弁証法的唯物観』・改造図書出版、昭和52年（1977年）】を書き上げた。
- 43 図版出処：この写真はアーネスト・シュミットの末裔にあたるドイツ在住のアクセル・シュミット Axel W.O.Schmidt が2003年に出版した著作 Axel W.O.Schmidt: *Der rothe Doktor von Chicago*. Ein deutsch-amerikanisches Auswandererschicksal. Biographie des Dr.Ernst Schmidt 1830-1990. Arzt und Sozialrevolutionär. F.a.M/Berlin, et.al.: Peter Lang. 2003. S. 373. より

- 44 F.A.Sorge: 上掲書, S.272.
- 45 図版出処: Hartmut Keil/John B.Jentz (edit): 上掲書, p.232. 同じ図版は Heinrich Nuhn: August Spies. Ein hessischer Sozialrevolutionär in Amerika. Jenior & Pressler. verb. Aufl., 1995, p.34 にも掲載されている。
- 46 1836 年頃から合衆国東部地区では労働運動家の組織も結成され、「夜明けから日没」に代わり、一日「10 時間労働」がほぼ定着しつつあったが、あまり守られることはなかった。
- 47 中屋健一著: 「新米国史」, 誠文堂新光社, 1988 年の 278 頁には「ヴァージニア奥地の農民サイラス・マコーミックは、1831 年刈取機を発明し、後シカゴで刈取機の製造を行い、60 年には年産 2 万台に達した。これが現在農耕機械製造会社として、世界最大を誇るインターナショナル・ハーヴェースター会社の前身である」と記されている。
- 48 William Z.Foster: 上掲書, S.82.
- 49 シカゴでは社会主義者たちの発行する雑誌や新聞紙の総部数は、ヘイマーケット事件が起きた頃、推定 3 万部にも及び、北部の他の工業都市でもこれに近い発行部数に達していた。1880 年代半ばになると彼らの主張は厳しさを増し、政治体制に対する露骨な批判となるとともに、読者層も一般的記事よりも遅々として改善されない劣悪な労働条件を暴露する記事に関心を懐いていった。
- 50 ドイツ名はアウグスト・シュピース。1855 年、ヘッセン公国バード・ヘルスフェルト *Bad Hersfeld* 近郊の小村フリーデヴァルト *Friedewald* に生まれ、1872 年にアメリカに移住、椅子張り職人としてシカゴに定住した。労働組合活動に参加、1877 年に「社会主義労働党」に入党、その後「シカゴ労働者新聞 *Chicagoer Arbeiter Zeitung*」に寄稿し始め、1884 年には同新聞紙の編集主幹となった。
- 51 図版出処: Heinrich Nuhn: 上掲書, S.67.
- 52 William Z. Foster: 上掲書, S.82. 因みに、Richard Hofstadter/William Miller/Damel Aaron: *The United States. The History of a Republic*. N.J.:Prentice-Hall.Inc.1957 の 475 頁には、警官 1 名の警察官が死亡、多くの負傷者が出たと記されている。
- 53 Julius S. Grinnell (生没年不詳) この人物の親戚は爆弾によって殉職したシカゴ警察官のひとりであった。
- 54 Morris Hillquit: 上掲書: S.243.
- 55 1920 年 4 月 15 日、マサチューセッツ州の田舎町サウスプレントリーで強盗殺人事件が発生、その加害者として確かな物的証拠なしに、イタリア移民のニコラ・サッコ (Nicola Sacco:1891-†1927) とバルトロメオ・ヴァンゼッティ (Bartolomeo Vanzetti:1888-†1927) が逮捕され、1921 年 7 月 14 日、裁判所は二人に死刑判決を下した。その後この審理・判決に対する抗議が各地で発生、弁護側から裁判やり直しの申請が出されたが、州知事はこれを却下、1927 年 8 月 23 日二人は処刑されてしまった。
- 56 写真出処: http://de.wikipedia.org/wiki/Datei:Haymarket_Martyr%27s_Memorial.jpg 【Version vom 02:55,17.Sep.2009】
碑文箇所は論者の加工による。
- 57 Axel W.-O.Schmidt, 上掲書 S.428 によれば、釈放後、全面的にシュバーブと彼の一家の経済援助をしたのは、オルトゲルトであったが、シュバーブは 1898 年 6 月 29 日 45 歳の若さで市内病院で死亡、死因は結核による。
- 58 今のシカゴ市南東地区【1889 年頃にシカゴ市に統合され】には「プルマン公園 *Pullman Park*」と 1970 年に史跡指定を受けた「プルマン歴史地区 *Pullman Historic District*」が残っている。
- 59 現在フランスのアルザス県コルマー *Colmar* 出身の移民の子。機関手に憧れ 17 歳で鉄道会社に入り、組合運動に興味を持ち「蒸気機関車手友愛会 *Brotherhood of Locomotive Firemen*」会員を経てその書記局長、さらに「アメリカ鉄道労働組合 *The American Railway Union ARU*」の代表となる。
- 60 写真出処: Harold Underwood Faulkner: *American Political & Social History*. 7th.Edition, New York: Appleton-Century-Crofts, Inc., 1952., P.509.
- 61 Harold Underwood Faulkner: 上掲書, p.510.
- 62 『在米社会主義者・無政府主義者沿革』【社会文庫編, 社会文庫叢書・明治 44 年、(柏書房:復刻版 1964 年)、422 頁】と題する本の中に、「北米合衆国ニ於ケル社会主義名及社会党」と題する次のような記述が見られる。1910 (明治 43) 年 5 月の「大逆事件」で検挙・処刑された幸徳秋水や在米日本社会主義者に関する貴重な記録であるこの復刻版出版物には、すでに明治 44 (1911) 年にこのデブスの大統領選挙戦について詳しい情報が記されている。参考までに【読み易くするため漢数字を算用数字に変えて】ここに取り上げておく。
- (略) 所謂社会主義ヲ實行スルニハ先ツ政治上ノ勢力ヲ得サルベカラズトハ同党ノ綱領トスル所ニシテ 1900 年ノ大統領選挙ニハ Debs ヲ候補者トシテ選挙運動ノ結果 10 万ノ投票ヲ得次ニ、1904 年ノ選挙ニハ Debs ハ 40

万 2321 票ヲ得タリ最近 1908 年の大統領選挙ニハ三たび Debs ヲ候補者ニ押し社会党幹部ハ寄付金ヲ募集シ之ヲ以テ俗ニ Red special ト称セラレタル特別列車ヲ組織シ全国ニ巡回選挙演説ヲナシ運動大ニ勉メタルモ當時恐慌ノ●弊ヲ●ケ社会党員（主トシテ労働者ナリ）ハ住所ヲ轉シテ投票權ヲ失ヒタルモ多ク加フルニ American Federation of labour カ公然「デモクラット」党ノ候補者ヲ助ケタル「レハブリカン」及「デモクラット」両党共社会党ノ政綱ニ似タル改革的政綱ヲ擦リシコトハ大ニ社会党ノ投票ニ影響シ「デフス」ノ投票数ハ前回ヨリ少シク増シ尚僅 242 万 1520 票ニ過キサリキ。合衆國中社会党ノ勢力カクアルハ「ウイスコンシン州殊ニ同州「ミルウォーキー」市ニシテ同州公吏ノ内社会党ニ属スルモノ百名以上其内州會上院議員一名、州会下院議員三名アリ又 1909 年ニハ社会党員「サイデル」氏「ミルウォーキー」市長ニ撰マレ現ニ其職ニアリ又合衆國議會ニハ従来社会党ハ一名ノ代議員ヲモ有セサリシカ昨年(1910 年)11 月ノ撰挙ニ於テ社会党ノ主領 Victor L. Berger 氏「ミルウォーキー」市ヨリ合衆國議會下院議員トシテ撰出セラレナリ。【●印は原文不鮮明で判読不可能な箇所】

因みにこの「社会党ノ主領 Victor L. Berger 氏」とは、社会主義者運動家ヴィクトーア・バーガー【(Viktor Louis Berger: 1860-1929): 氏名はドイツ風には、ベルガー】のことである。バーガーは、オーストリア・ハンガリー帝国の小村【ニーダーレーバツハ *Nieder Rehbach*】生まれのユダヤ系ドイツ人。ブダペスト大学とウィーン大学に学び、1878 年頃両親とともにコネチカット州ブリッジポート *Bridgeport* 近郊に移住定住。その後 1880 年代からミルウォーキーで教師を務めながら「ウイスコンシ・フォアヴェルツ *Wisconsin Vorwärts*」、 「ソーシャル・デモクラテック・ヘラルド *Social Democratic Herald*」、 「ミルウォーキー・リーダー *Milwaukee Leader*」などのドイツ語新聞の編集に携わりながら、1911 年から 1913 年まで「ミルウォーキー・ドイツ社会主義者協会 *German Socialists of Milwaukee*」の会長職を務めた。1919 年に連邦議會下院議員に選ばれたが、アメリカ合衆国の第一次世界大戦参戦を強く批判したことで、同僚議員からこの行動が合衆国に不忠実だとして、彼の議席権剥奪動議が出された。後に再選され、1923 年から 1929 年まで下院議員として活躍した。